

# 平城京一条北辺四坊六坪

## (伝称徳天皇御山荘跡)の発掘調査

調査期間 1983年12月 5日～(継続中)

調査面積 約1000㎡

### ※遺構の概要

1984. 1. 26～27 杉山 洋

#### [Aトレンチ]

SB05 桁行 3間分、梁間 1間分を検出 8尺等間 梁間 2間の南北棟掘立柱建物となるか。

SB06 南北棟掘立柱建物  
桁行 3間 梁間 2間 10尺等間

SB08 東庇付南北棟掘立柱建物  
桁行 3間以上 梁間 身舎 2間 庇 1間  
桁行10尺 梁間 身舎 8尺 庇 9尺

SB11 東庇付南北棟掘立柱建物  
桁行 2間以上 梁間 身舎 2間 庇 1間  
桁行 9尺 梁間 身舎 6尺 庇 9尺  
以上 2棟の掘立柱建物は身舎の東側柱筋と庇の柱筋をそろえる

SB13 南北棟掘立柱建物  
桁行 2間以上 梁間 2間 10尺等間となるか。  
大形で地形風の掘形のなかに小形の掘立柱建物の掘形をもつ

SB09 南北棟掘立柱建物  
桁行 4間 梁間 2間 6尺等間 SB08より古い。

SB12 SB11と妻柱筋を揃え、ならび堂になると思われる掘立柱建物

SD10 素掘の東西溝 幅40cm、深さ60cm

SX07 中央には炭化物のつまった大形の甕を置き、周囲を柵状の遺構がとりかこむ

SA16 柱間10尺の南北柵 SA15と連なり閉塞施設となる可能性あり

#### [Bトレンチ]

SB01 南庇付東西棟掘立柱建物  
桁行 7間 梁間 身舎 2間 庇 1間  
桁行10尺 梁間 身舎10尺 庇13尺  
掘形の一辺が 1.2～1.4m

柱径は身舎が約40cm、庇が約30cm。北側柱筋に柵(SA15)の取りつく可能性がある。南北方向の中軸線は、坪の中軸線にほぼ合う。

SB04 東西棟掘立柱建物  
桁行 5間 梁間 2間  
柱間不揃い。SB01より新しい。

SD02 SB01の北側と東側をめぐる素掘の雨落溝。瓦の出土が多い

SK03 方形の土坑 井戸となるか

SA15 柱間10尺の東西柵 SB01の北柱筋に取り付くか

#### [Cトレンチ]

SD14 幅 3m 深さ 0.5mの素掘の溝。六坪と七坪との坪境小路の東側溝か。

### ※遺物の概要

#### [土器]

全体に出土量は少ない。奈良時代前半期の土器がBトレンチの整地層から出土

#### [瓦]

SD02から軒平瓦 1点、SD10から軒丸瓦 6点、軒平瓦 3点 いずれも小型で特殊な型式の瓦が多い。

### ※時期

- ・遺構の掘り込まれる整地層から、奈良時代前半期の土器が出土する。
- ・庇付の建物はいずれも広庇である。
- ・溝出土の軒瓦は奈良時代後半

以上 3点により、これらの遺構は奈良時代後半期に属するものと考えられる。さらに建物の切り合い関係から細分すると

I期 SB09

II期 SB01, SD02, SB13

III期 SB01, SD02, SB08, SB11, SB12

IV期 SB04, SB05, SX07, SD10

なおSK03は時期不明

### ※調査成果

- ・奈良時代後半に属する建物群が検出され、それらが計画的な配置をとること。
- ・大形の掘立柱建物SB01の検出
- ・平城京一条北辺四坊における条坊遺構の検出

今回検出された建物群は、配置から見て史跡指定地の池と一体のもとに計画されたものである。さらに金銭(開基勝寶)出土地とも近接しており、伝称徳天皇御山荘地の可能性が極めて高い。

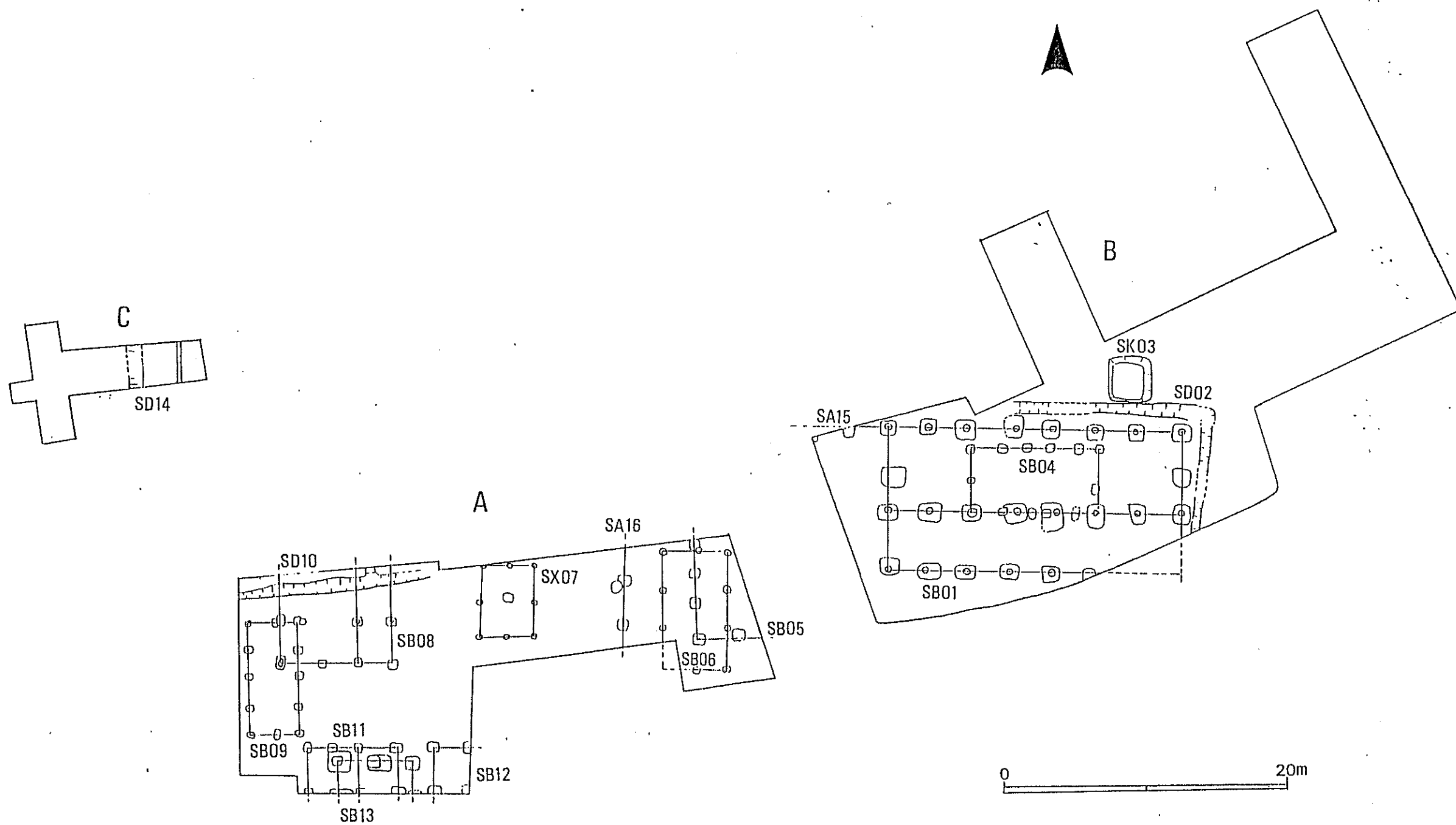


図1 遺構図

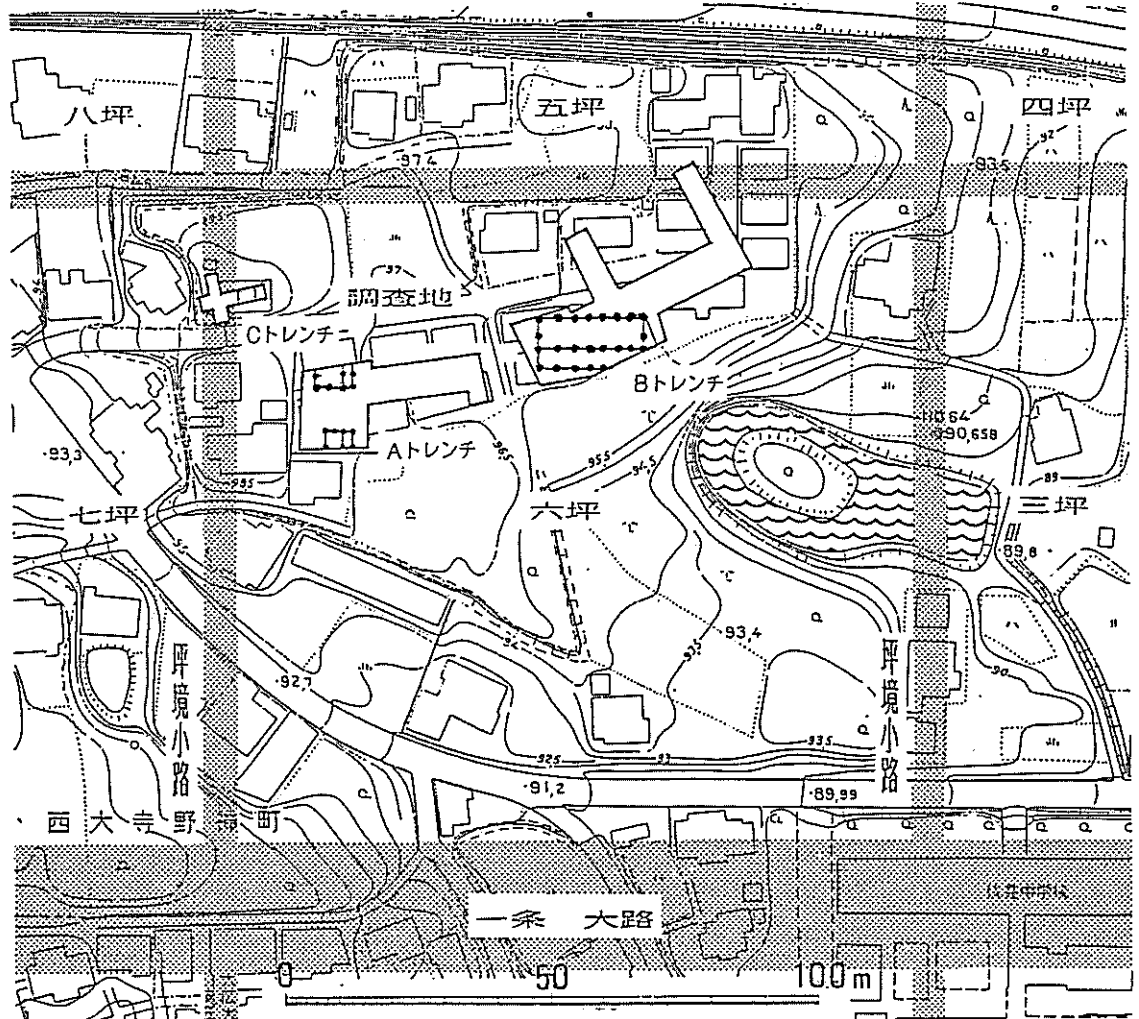
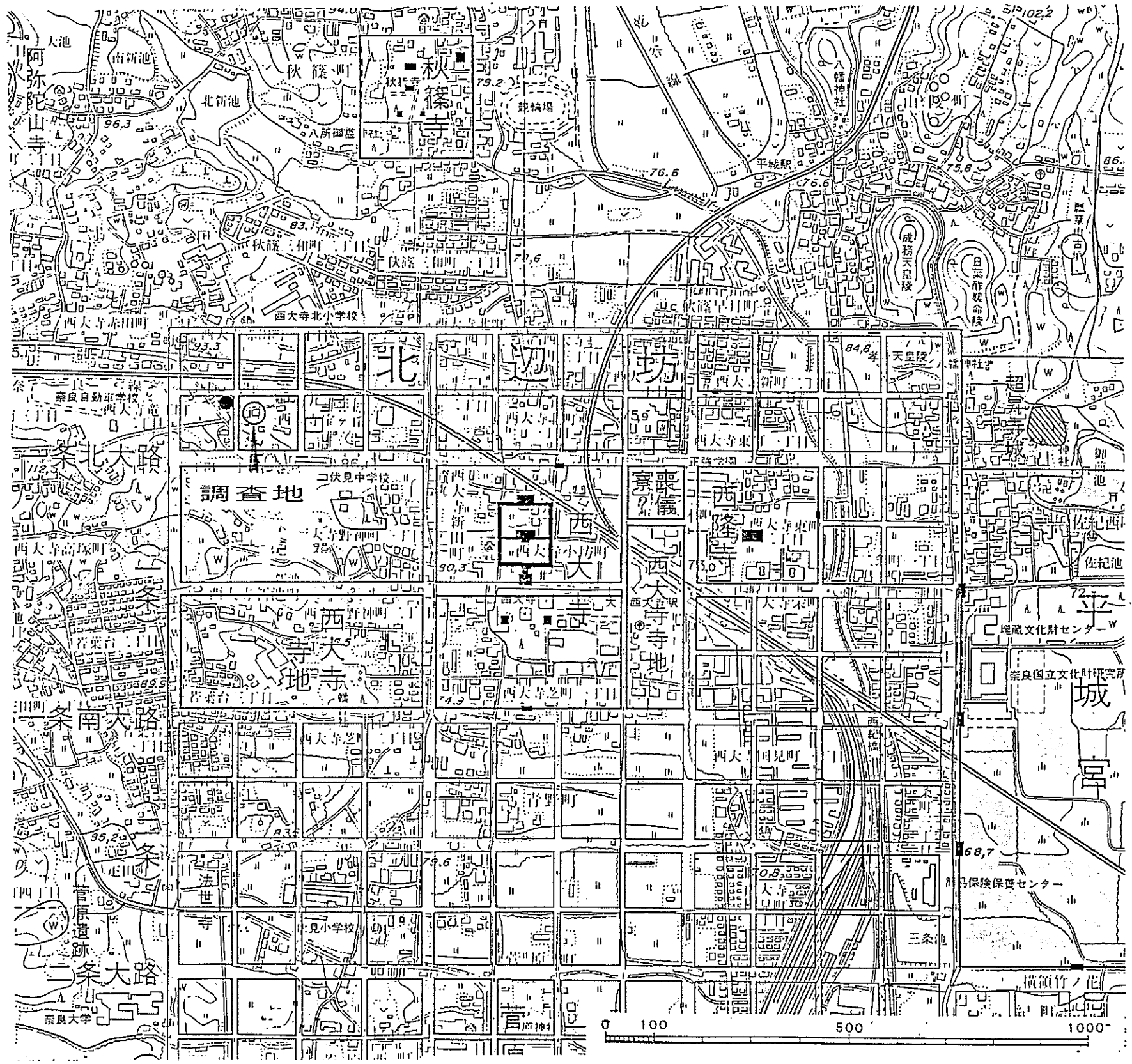


図2 発掘調査位置図I



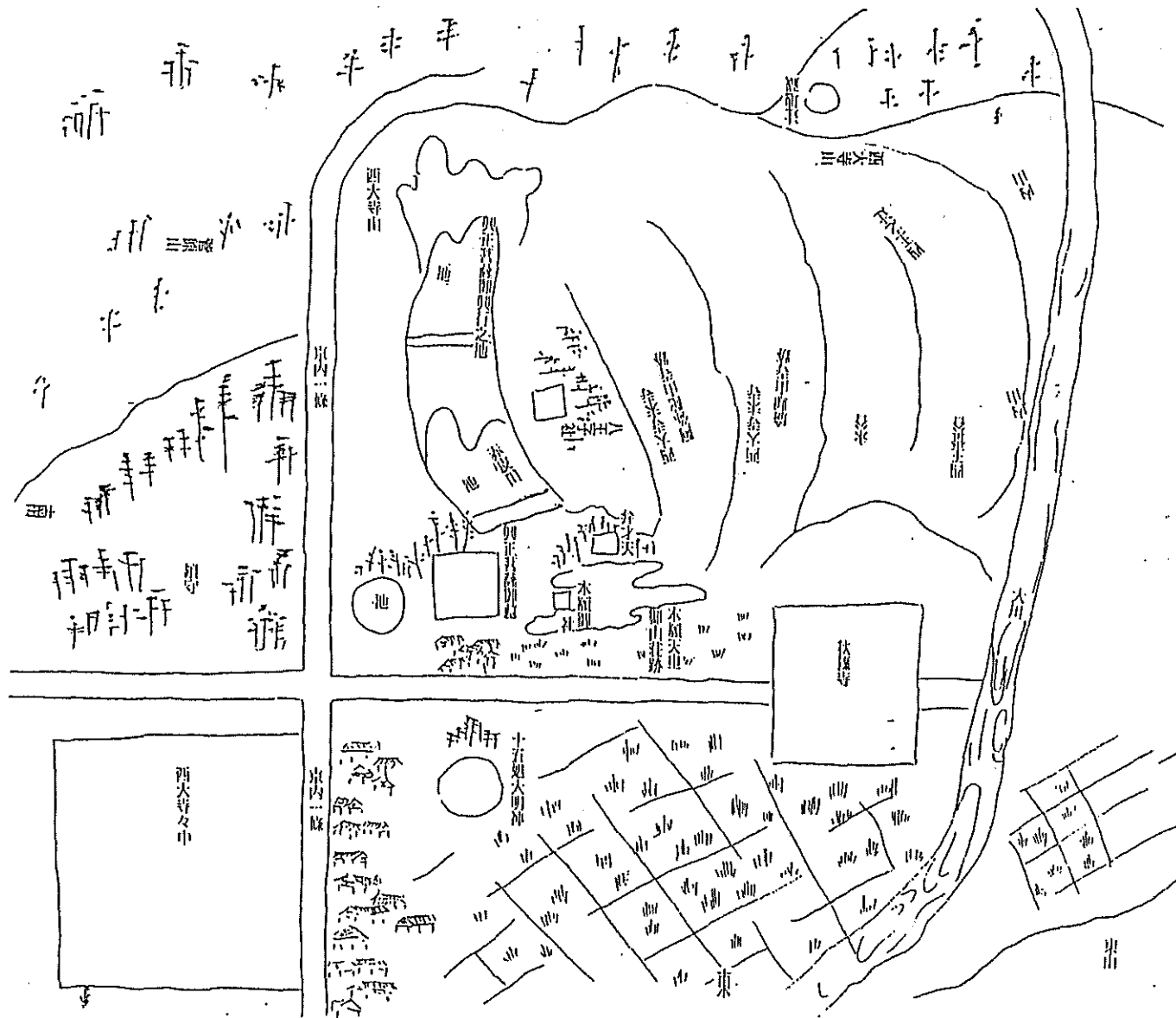


図4 西大寺古図

平城京と宮の園池

名称	位置	発掘調査	規模形状	意匠
A. 伝称徳天皇御山荘跡 (平城京西四坊北辺)	西大寺奥院北西 200m 西の京丘陵の北端 溪流状の地形	1979年 第118-2・20次 調査 東岸・南岸の一部を検出	南北18m、東西55m 水深約20cm ヒョウタン形 1,160㎡	中島、北西隅に湧泉 護岸は地山の掘り込み。
B. 平城宮	平城宮内大膳職地区	1960年 第4次調査一池 全容を検出	南北17m、東西18m の不規則形。最深部 の深さ80cm。150㎡	護岸は堅地土の掘り 込み。東に隣接して 南北棟が建つ。
C. 平城宮東院	東院東南隅、宇奈多里 神社林丘東	1967年 第44次 1976年 第99次 1978年 第110次 1979年 第120次各調査で 池の全容、付属建物検出	南北60m、東西60m 鏡の手状に複雑に屈 曲した汀線、水深40 cm。1,970㎡	初期の庭は汀線に安 山岩を敷きつめ、後 期の庭は全面玉石敷 景石・中島・橋を設 ける。
D. 平城京左京三条一坊 十四坪	十四坪の南西端	1968年、第46次調査で西 側小路に沿った築地、門 その内側に建物、園池の 一部検出	一部(南北5m、東西 10m)の円形の池、 水深25cm。	中島と径20cmの玉石 が橋部に一部残存、 庭石1ヶ。
E. 平城京左京三条二坊 六坪	東に隣接して菰川が流 れ、池は六坪の中心に 位置する。	1975年 第96次、1978年 第109次、1980年 第121 次、各調査で池の全容、 付属建物検出	南北延長55m、東西 巾15mの曲池、水深 25m。220㎡	全面石敷の池で、洲 浜、庭石を持つ。

主要参考文献

- ・「昭和36年度 西大寺調査」  
『奈良国立文化財研究所年報 1962』 昭和37年
- ・岸俊男「習宜の別業」  
『日本古代政治史研究』 昭和41年
- ・「称徳天皇御山荘推定地の調査」  
『昭和54年度 平城宮跡発掘調査部調査概報』 昭和55年

